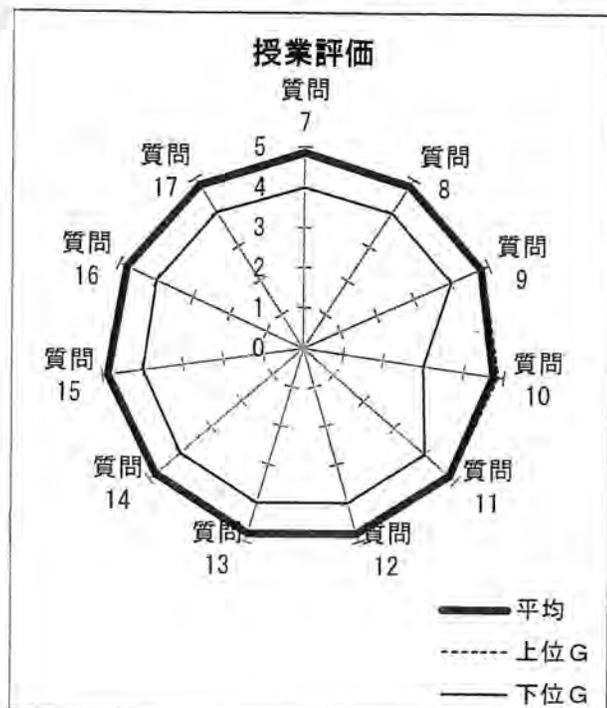


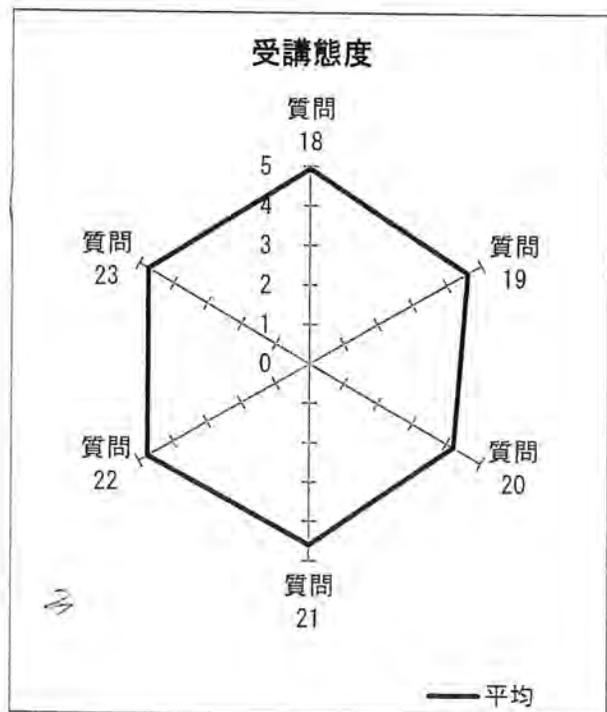
科目コード 401 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 碓井貴美子 ソルフェージュⅠa～Ⅳa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.8	4.9	4.0
質問10	4.7	4.9	3.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.8	4.9	4.0
質問13	4.8	4.9	4.0
質問14	4.8	4.9	4.0
質問15	4.9	4.9	4.0
質問16	4.8	4.9	4.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.8	4.9	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	4.2
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	ソルフェージュ I a~IVa	

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

最上位クラスの授業であるため、今までに経験してきていない教材を使うことをモットーにおこなってきている。

メンバーの殆どが、前期から引き続いてのこのクラスであるおかげで、随分と筆記のスピードや理解力がついてきている実感がある。

ソルフェージュの習得は、各々の専門実技の基礎力に反映されるので次年度以降も積極的に学習の機会を持ち続けることを希望します。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： ソルフェージュ I a

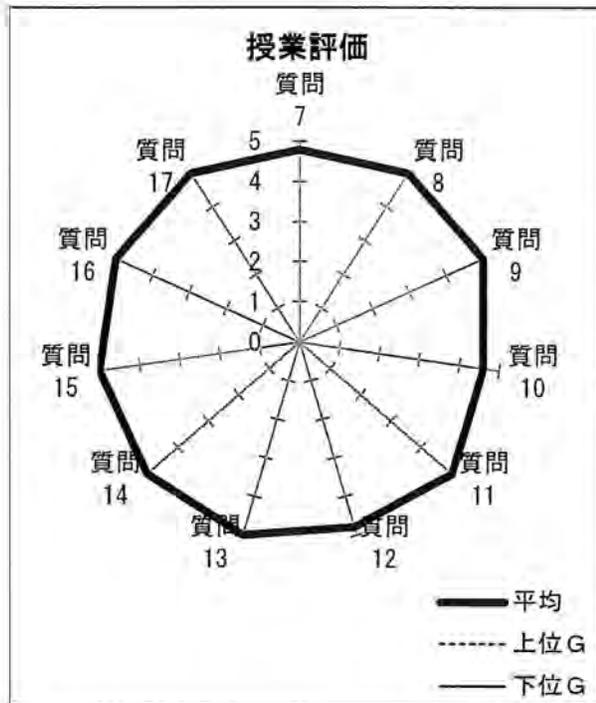
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度の受け持ちクラスは、1 年生の基礎力を付けるクラスに変更になっている。

これまでとは異なり、基本的な段階から始まるにあたり、学習意欲を向上させつつ、ソルフェージュのコツを分かりやすく身に付けさせることを念頭におこなっていきたいと考える。

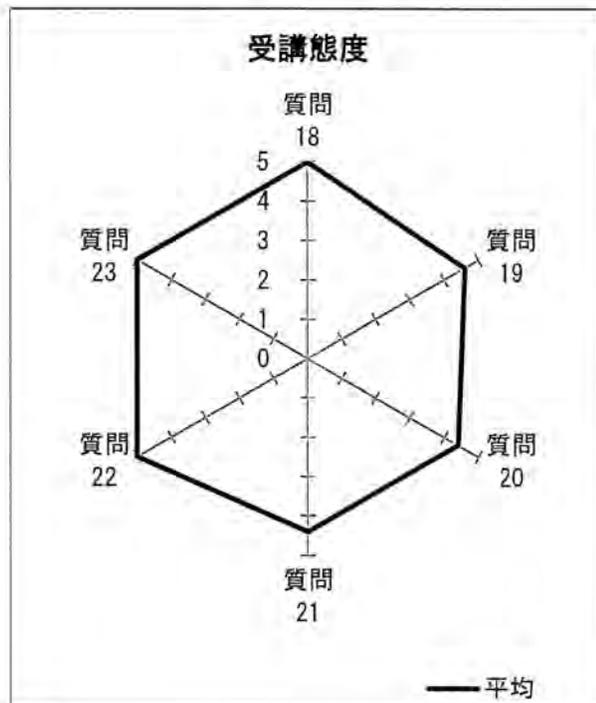
科目コード 403 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 椎名雄一郎 ピアノ伴奏法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.6
質問20	4.4
質問21	4.4
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名雄一郎	ピアノ伴奏法	6

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体としては良い評価だった。5.0 でない項目を挙げると以下である。

授業の目標説明とシラバスに沿った実施は 4.8 だった。どのような学生が履修するかわからない中で、シラバスを作成したこと、そして2クラスでおこなったことにより、より私のクラスの実情に合った進め方でおこなったために、シラバス通りと行かなかった面もある。

教材・機器などの効果的な使用については、この授業の場合、やはりピアノ実技中心となってしまったため、機器の使用ができなかった。もう少し工夫したい。

授業環境に対する配慮という面では、一人一人の実技となる部分が多く、待ち時間が長くなってしまったことが反省である。

また授業の予習復習が 4.4 という数字が気になった。課題を毎週明確に課したい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：伴奏と即興 ab

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

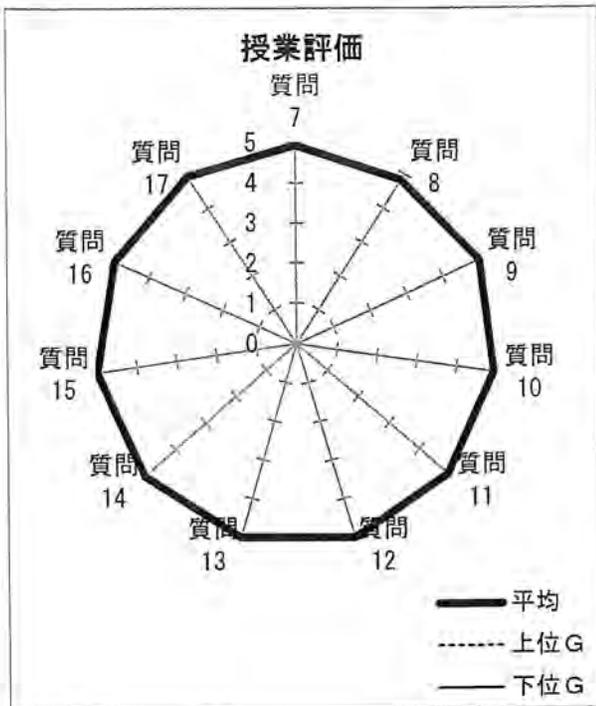
来年度から新カリキュラムの伴奏と即興という科目となる。実際にこれまでの即興演奏と重なる内容もあったため、より効果的な授業内容としたい。

この授業の場合、ピアノの演奏能力が授業の内容と直結する。それぞれのレベルに合わせた授業方法を研究する。

またピアノだけではなく、様々な音源を聴くなどの工夫もしていきたい。

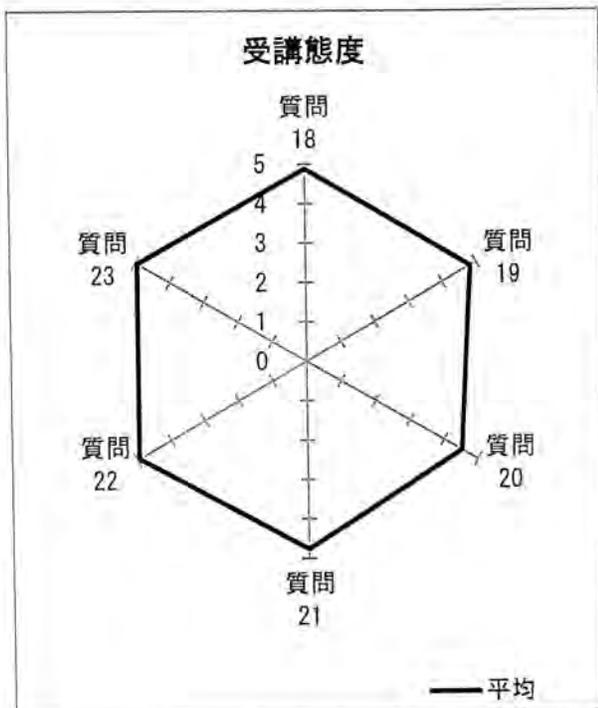
科目コード 404 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 持松朋世 音楽科教育法Ⅳ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.5
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	音楽科教育法Ⅳ	17名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業の実際と集計結果より、授業を行う上で学生の授業評価と受講態度において本評価は平均的なものと受け止める。授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われることから、今回の結果を受けて学生を如何に授業に積極的に臨ませるか、授業へのアプローチ方法などにおいても検討の必要性を感じる。

本授業では教育実習に行く最後の教科教育法であることから、欠席も比較的少なく、また受講態度も良かったと思われる。受講者が多く、教員の発言、プレゼンテーションへの参加度など個々がいかに主体的に学べたかが4年次の教育実習での充実度と比例してくるところであろうと思われるが、教育実習の事前指導を含めてサポートを行い、教育実習に繋げたいと考える。

授業評価アンケートの結果から、授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであり、初回の授業時には授業における到達目標を意識付けるなどし、さらに本時の目標、そして授業終了時には本時の振り返りを行い、本時の学びを各々が得るなど、学生自身もPDCAを繰り返しながら今までの学びの本質化や継続化、総合化を図ることが必要と思われる。今後その他の授業でも学生に対しより良い授業を提供する為の工夫や検討を行っていきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

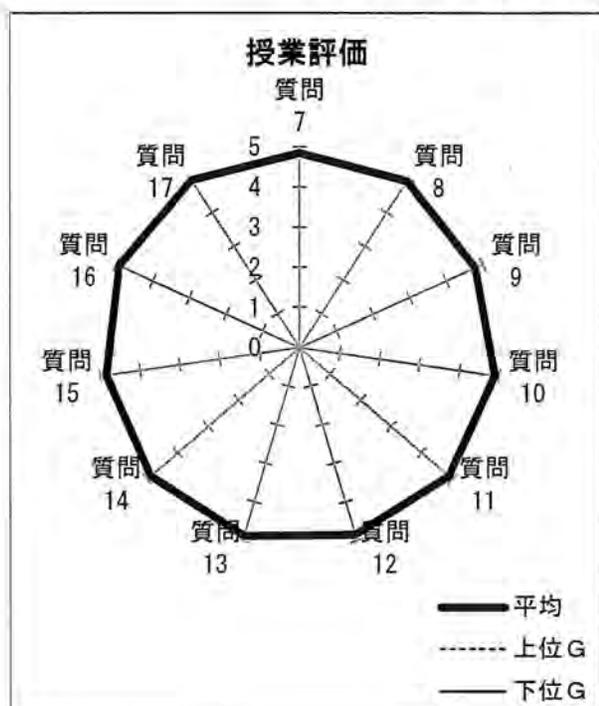
2019年度担当予定科目名：音楽科教育法Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019年度も同様に音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの授業を行うことになるが、昨年度の反省を活かしてさらに計画的に取り組んでいく予定である。学校教育の中では、授業の開始時間に教員が本時の目標を提示し、生徒と共に学ぶ体制を整えておくこと、さらには終業時には本時の学びを振り返り、次時への見通しを立てることが必要である。将来教育者を目指す学生の為の授業として授業時間の厳守、授業目的の明確化などを、一方通行の授業ではなく学生の学ぶ意欲を高める授業の在り方について、検討を重ねたい。

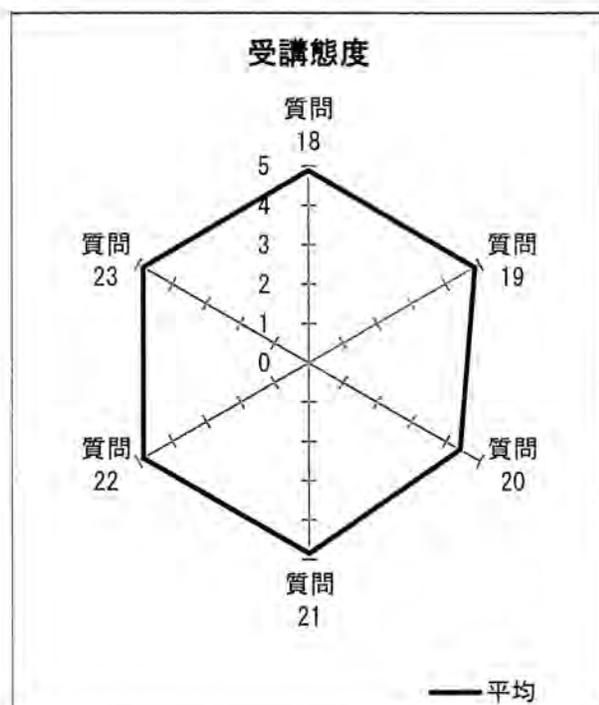
科目コード 406 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 コンピュータと音楽



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	4.4
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	コンピュータと音楽	34

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

新しいカリキュラムの最初の授業となった。前年度まで、は前期に楽譜浄書を取り扱い、後期はコンピュータ音楽についての知識とシーケンサソフトやレコーディングソフトを取り扱っていたが、今年度よりそれが半期となってしまったために、コンピュータ音楽については簡単な知識に留め、学浄書に重きを置いて授業を展開した。また、取り組む課題を一新したが、若干レベルが高すぎたのか、かなり困難を伴ってしまった（結果としては出席の足りていた学生は全員が提出した）。また、欠席した学生などに対しては、学生同士でフォローできるよう配慮し、ついていけないということがないように配慮したつもりである。

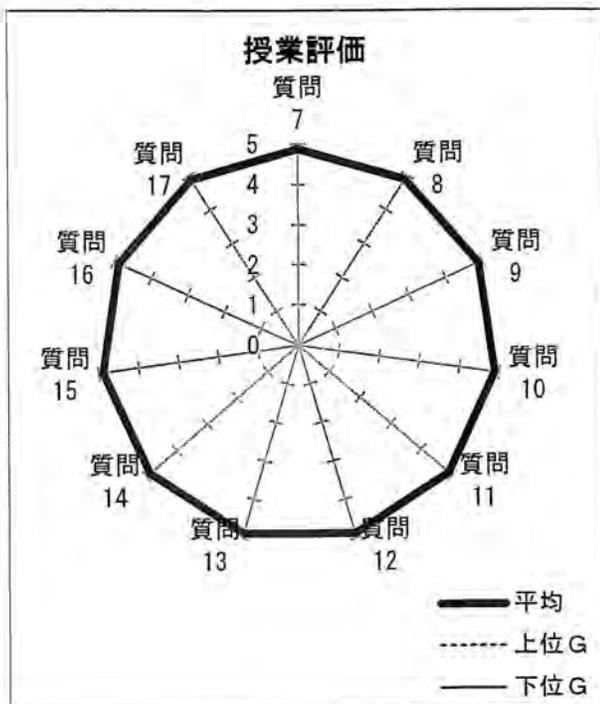
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : コンピュータと音楽

最初からあまり高度で複雑な課題ではなく、取り組んでいて段々と操作方法をマスターできるような課題の選定を行う予定である。また、可能であれば、ソフトウェアの最新版へのバージョンアップも行う予定である。

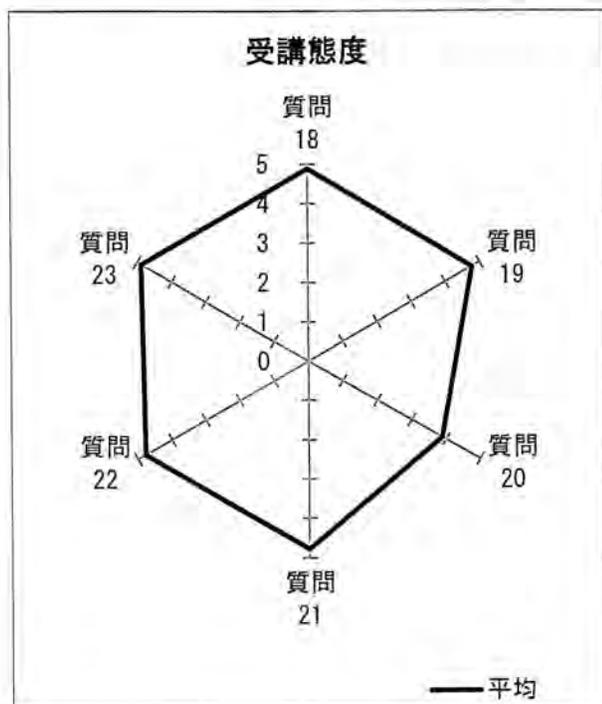
科目コード 407 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 吉田峰明 音楽メディア研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	3.9
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音 楽	音 楽	吉田 峰明	音楽メディア研究	9名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果 ; 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「授業評価」はすべて4.9で、とりたてて触れることはないと思う。一方の「受講態度」は、「欠席回数」の3.9のみやや低かった。もとより欠席については規定通りの扱いとしているが、もっと厳しく指導しなければならない。しかしながらおおむね良好と判断、今後もこの調子で継続していきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

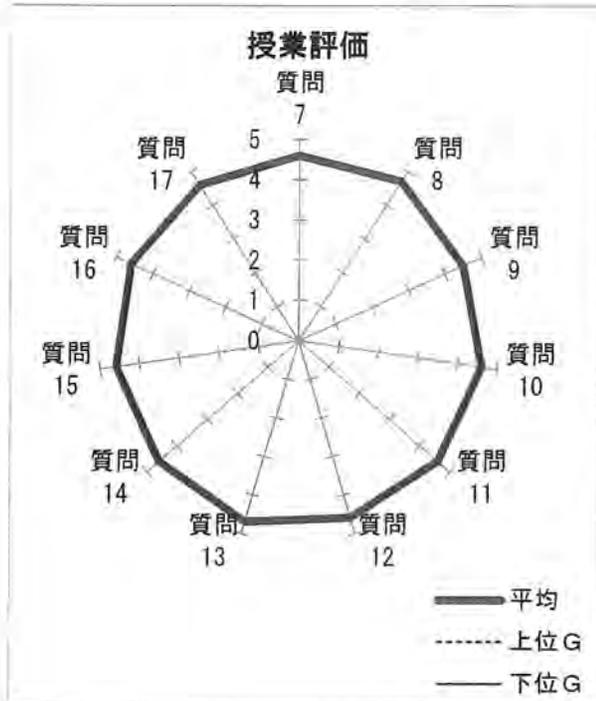
2019年度担当予定科目名：音楽メディア研究

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

同科目について、今回はおおむね良好であったが、音楽文化コース学生にとって基盤となる科目であるため、新たな学生たちについてももう少し様子を見たい。

科目コード 408 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 古賀幹敏 臨床医学各論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.5	4.5	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.6	4.6	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

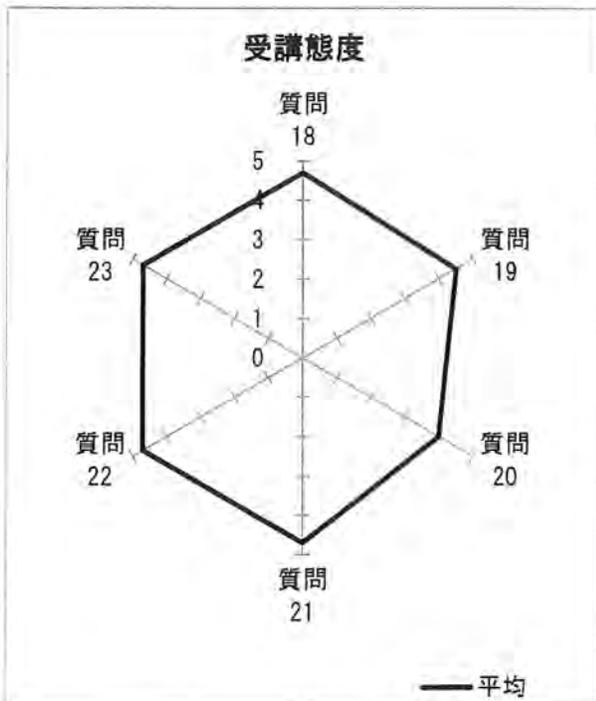
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.0
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	古賀幹敏	臨床医学各論	9名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

新しいカリキュラムへの移行のため最終学年の後期科目となった。このため、従来の講義内容に解剖・生理学の内容を含め動画や写真などを用いて学生の理解に配慮した。講義内容の特質を考慮しても学生の評価は全体に高く、上位・下位のグループに分かれることもなく、結果としては良い方向であったと考えられる。ただその中でも特に質問9の点数が低めではあるので一考を要すると思える。

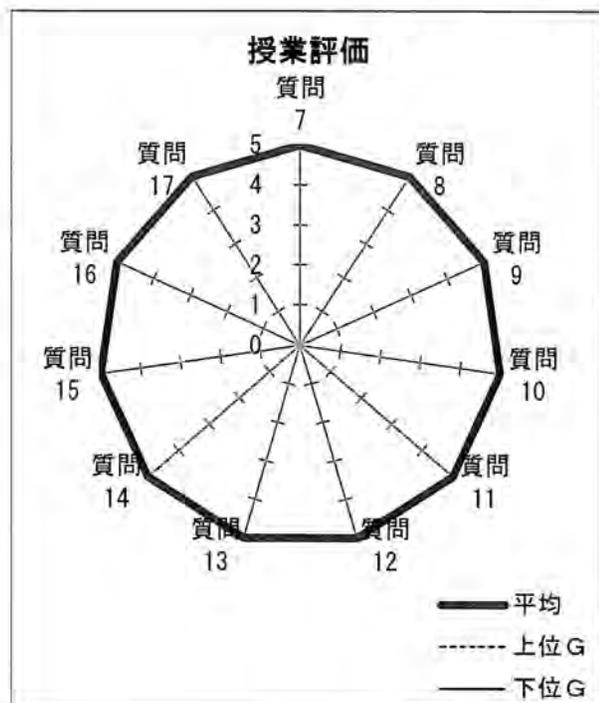
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： _____

学生の受講態度 20 の低さが気になる。授業内容も各項目がリンクして行く内容なので、欠席が授業内容の理解に大きくかかわってくる。毎回の授業での小テストのあり方ともリンクしているかもしれないので、テストスタイルの変更も考えられる。

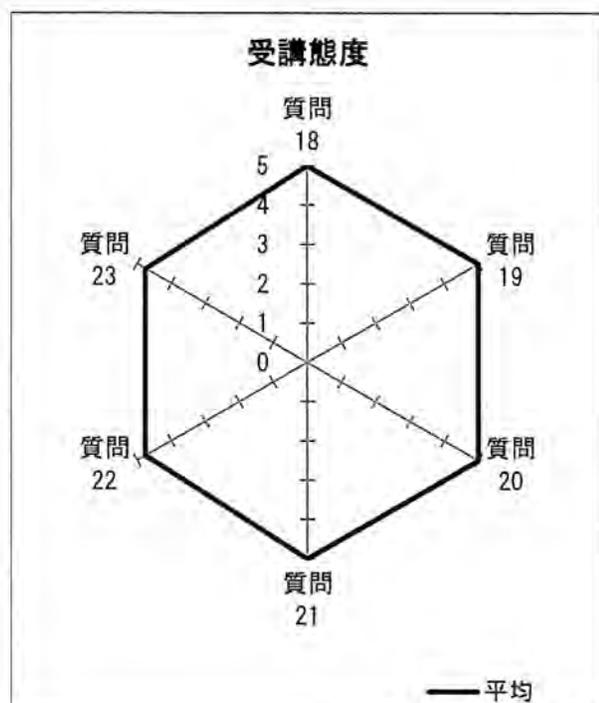
科目コード 410 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 三好直英 アンサンブル



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	アンサンブル	8名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問 7～17 において平均値が 5.0、質問 18～23 においては平均値が 4.9 であった。
- ・これまでの実践を経て演奏の機会にも恵まれたこと、そしてアンサンブル定期演奏会に向けて受講学生の意識がさらに高まり、またリハーサルの精度も上がるとともに習熟度も自然に高まっていった。楽曲・演奏技術ともにより理解度が上がったと感じる。それがこの評価につながったと考える。
- ・アンサンブルという複数の人数で成立するものなので、全員が揃っての予習・復習が困難であったと考えられる。その中で学生は今までも増して限られた時間の中で対処しそれを飛躍させたこと、また練習の創意工夫した点を非常に高く評価したい。学生の努力が常に見られる。
- ・アンサンブル授業の延長として第三回ホルンアンサンブル定期演奏会に向けてさらに表現力が高まり、演奏会の企画への興味も深まっていったと感じる。
- ・またこの度、ホルンアンサンブルが湯口隆司学長より特別表彰をいただいたことは学生に大きな励みとなった。

II. 2019 年度に向けての取り組み

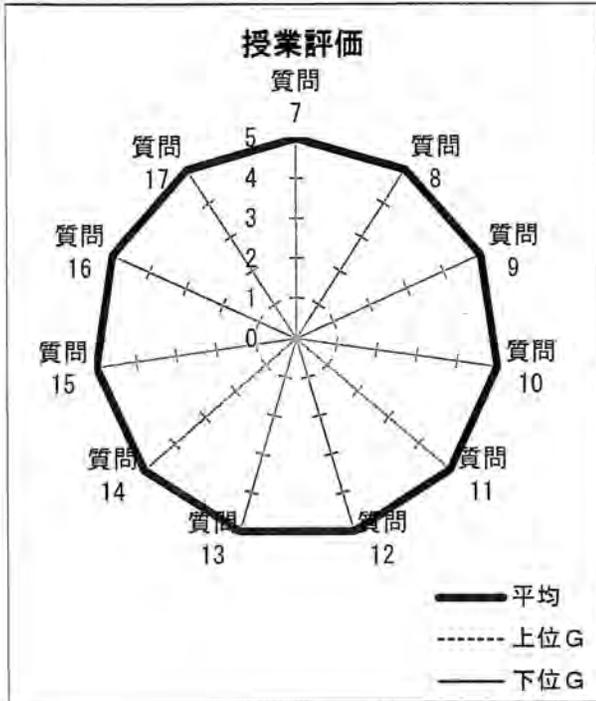
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・さらにホルン専攻生として必要なレパートリーをさらに増やすとともに、新たなレパートリーの発掘、そして今後ともハーモニー楽器としてのアンサンブルのスキルを身に付けていけるようにつとめたい。
- ・また演奏の機会をさらに増やしていくようにつとめていきたい。

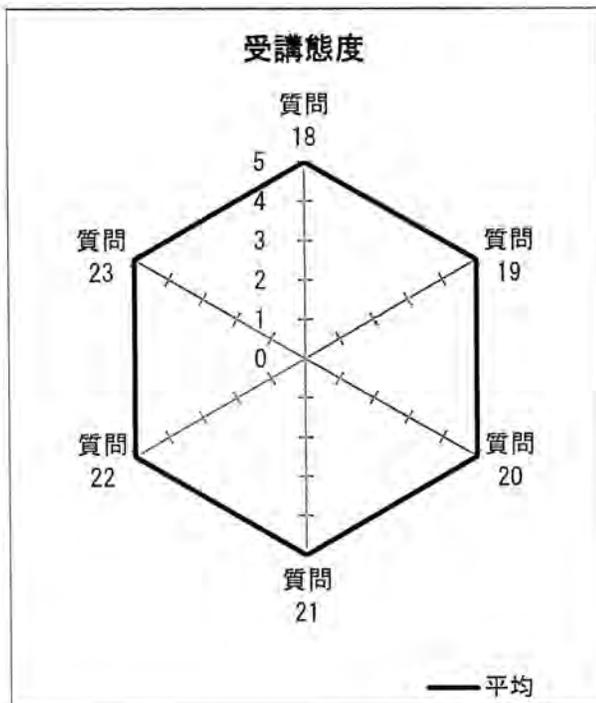
科目コード 411 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 碓井貴美子 卒業研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽	音楽	碓井貴美子	卒業研究	1

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

大変意欲的で、積極艇にレッスンを受ける学生でございました。

卒業年度後期でもございますので、論文の作成し、彼女自らの卒業演奏もありますので、必死に毎時間のレッスンに食らいついてきたように思います。

ただただ演奏すればよいのではなく、作品の持つ内容や表現に即した演奏を心掛けねばなりません。その方向性をしっかり示すことを務めてまいりました。

充実した時間をお互い持てたことで、素晴らしい演奏を花開かせてくれたことに、私としても、大変誇らしく感じております。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : 卒業研究

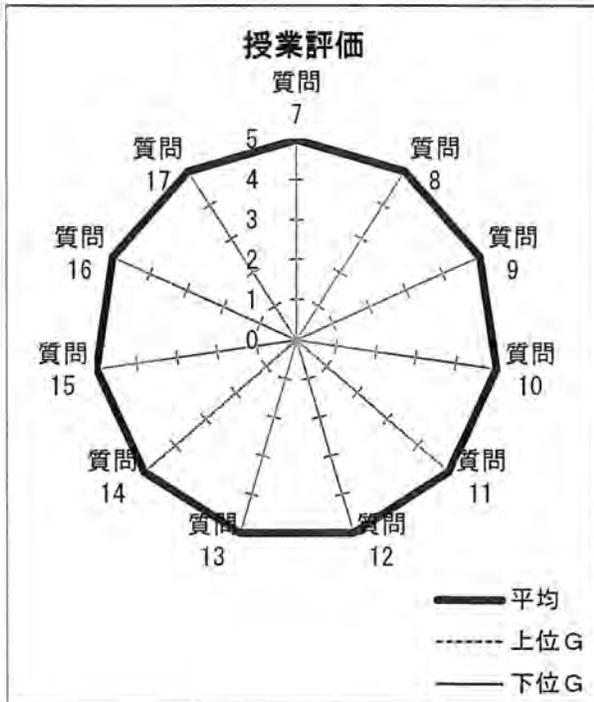
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度は複数人の卒業生がおり、それぞれ個性の違うタイプの学生ですので、彼女らにあった作品を選曲し、満足のいく演奏を目指してもらいたいと考えます。

弾くことと頭で理解すること、耳で聴くこと、多様な側面を同時に処理して演奏していきます。慌てることなく、着実に前進していってくれることを期待しながら、的確な指導を心がけ、学生らを引っ張っていったらよいと考えております。

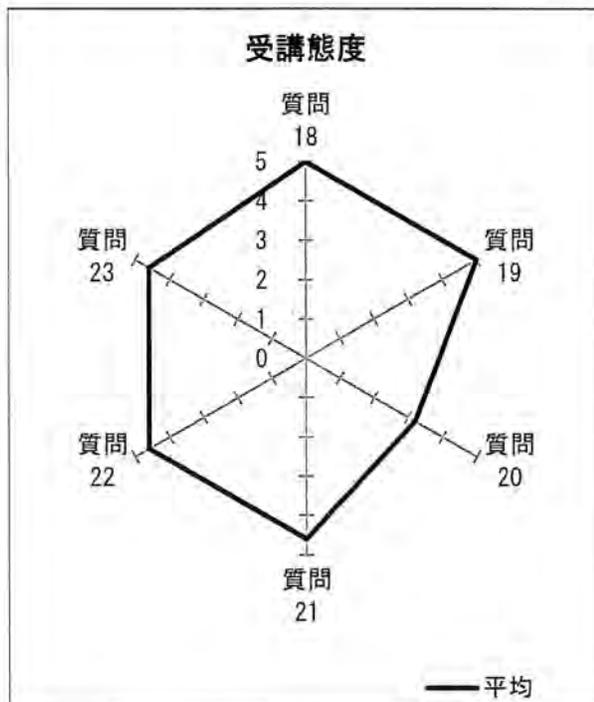
科目コード 412 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 草場紀久子 フルートb



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	5.0	5.0	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	5.0	5.0	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	5.0	5.0	5.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	5.0	5.0	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	3.2
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担 当 者 名	科 目 名	履 修 者 数
音楽学部	音楽学科	草場紀久子	フルート b	8名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

2018年度新規開講科目。当初の目標、目的を途中で随分変更した。それは一つの楽器を習得していく過程を身に付ける、というものだったが、学生たちの興味、関心がそこから外れたところにあることを受け入れて、自分の設定した当初目標にこだわらずに軌道修正した。そのような経緯があったので、私自身はあまり授業に達成感を感じることが無く、私自身の中での評価は低い。しかし、アンケート結果としては高評価であるのは、学生目線での授業の目標設定が、学生たちには大事であることを物語っている。それがわかったことが、今回の収穫ではある。

II. 2019年度に向けての取り組み

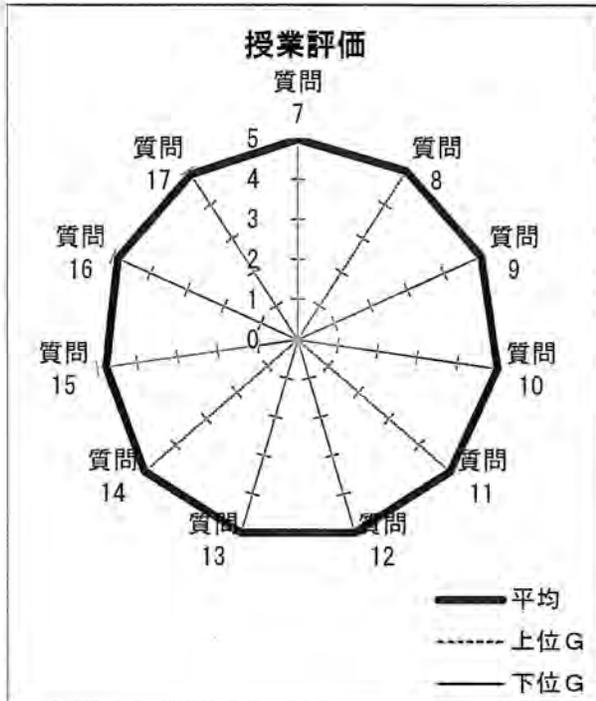
2019年度担当予定科目名：_____フルート a/b_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019年度はまず、環境改善に取り組み、開講教室を変更している。2018年度の教室は、楽器を取り出す際の、安定した場所の確保が難しかったので、2019年度はカーペット敷きの音楽療法室に移った。また、2018年度はそれぞれが結び付きにくかった、①奏法の手順を説明する、②吹いて聞かせる、③どこがポイントか意識づける、④試みる、⑤修正する、のプロセスをより丁寧に行い、学生が楽器を習得することの要点を感覚的につかめるように努めている。

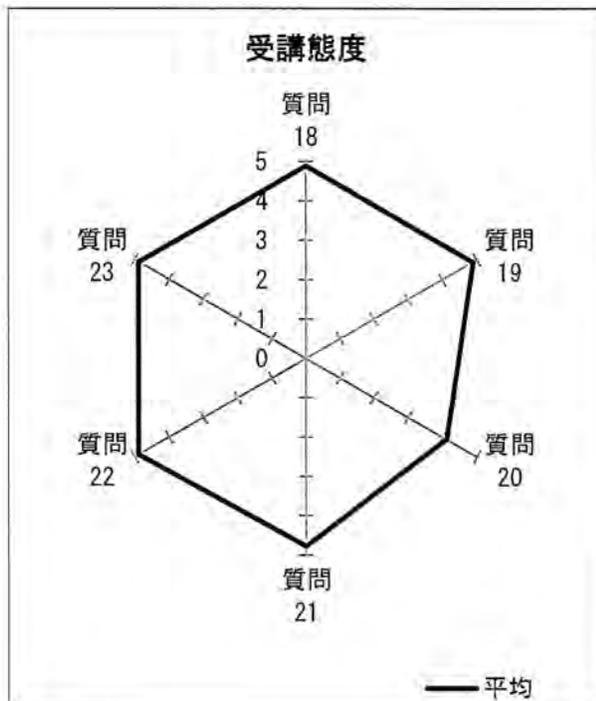
科目コード 413 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 椎名雄一郎 ソルフェージュ Ia~IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	4.1
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名雄一郎	ソルフェージュ	9

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体としては良い評価だった。5.0でない項目を挙げると以下である。

授業理解度が4.8である。これはクラスの中でも能力に差があるため、難しいと感じた学生もいるだろう。しかし全体的にはスキルアップできていると感じている。

授業の興味・関心・意欲に関しても、できて楽しいと感じる時を増やす必要がある。ソルフェージュの楽しさを感じられるようにしたい。

新しい知識・・・の有用性については、1年生から続けて受けている学生もいる。どちらかと言えば同じような内容だと感じるかもしれないが、その積み重ねが能力となるだろう。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：ソルフェージュ

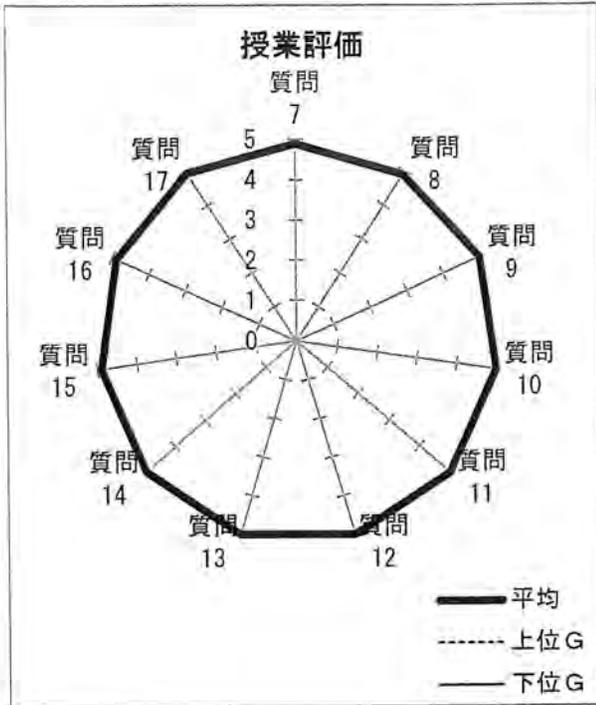
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度も引き続き担当する。ソルフェージュの基礎的な能力をつけるとともに、学生自身が楽しいと感じるようなソルフェージュ授業を展開したい。

そのためには様々な教材研究をさらに進めたい。

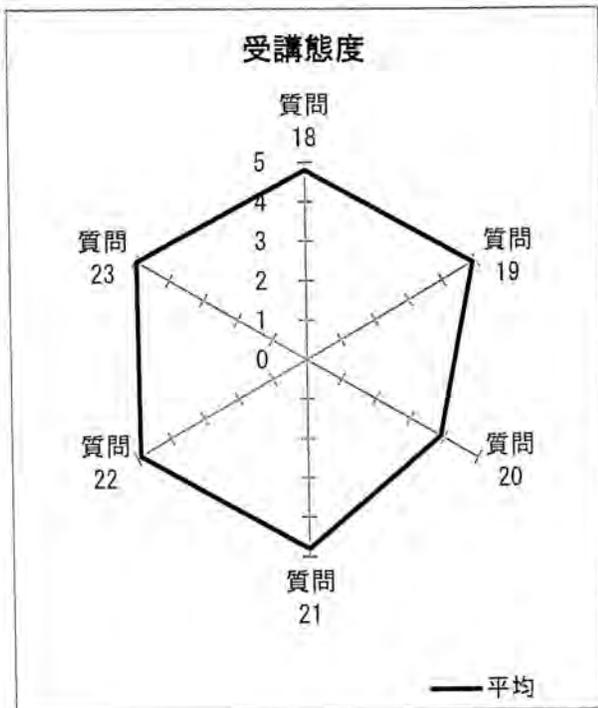
科目コード 414 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 持松朋世 教職声楽



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.9
質問20	3.9
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	5.0
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	教職声楽	22名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

音楽学部の新カリキュラムの中で、2018年度から教職などの資格取得科目として、履修者に必要な力を万遍なく身に付けさせるべく開講されている科目である。15回という限られた授業回数の中で、各々に必要な技能を身に付け、さらに指導者として必要な力を身に付けさせるべく授業を行ってきた。

授業者として2018年度後期の授業を振り返ったとき、事前学習、事後学習の内容について提示の仕方や方法に工夫や改善が必要であること、一斉授業では難しいが個々に必要な技能を明らかにすること(何が不足し、何が出来るようになったのか)などが、今年度の反省と次年度に向けての課題である。

授業の実際と集計結果より授業を行う中で、学生の授業評価と受講態度において本評価は平均的なものと受け止める。授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われるので、今回の結果を受けて学生を如何に授業に臨ませるか、授業へのアプローチの仕方においても検討の必要性を感じる。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：教職声楽 他

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

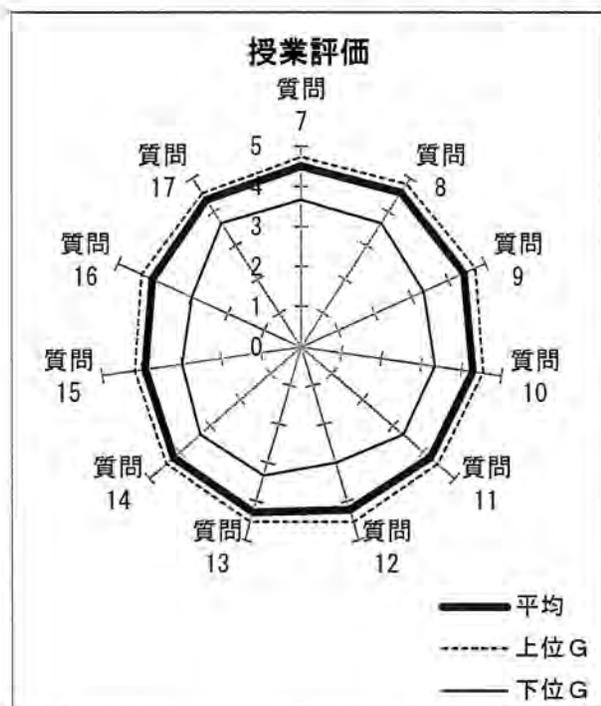
2019年度も同様に教職声楽、専攻実技や合唱など声楽に関する授業を担当することになると思われる。本授業の受講者は教職や音楽療法の資格取得予定者であるため、指導が一方通行ではなく、何を目的として行っているのか、具体的にはどのようにすると改善されていくのかなど、考える作業を伴うことでより教育現場での指導法に活かされる指導を目指していることを伝えていきたい。

上述のように、受講生全員の何が不足していて、この授業を通して何が出来るようになったのかを明らかにしながら、指導者として必要な力を身に付けさせたい。

特に実技では言葉で伝えられないことも学生は教員の演奏の提示一つで伝わってしまうという厳しさを忘れずに、教員も精進しつつ、緊張感を持って授業に臨みたい。

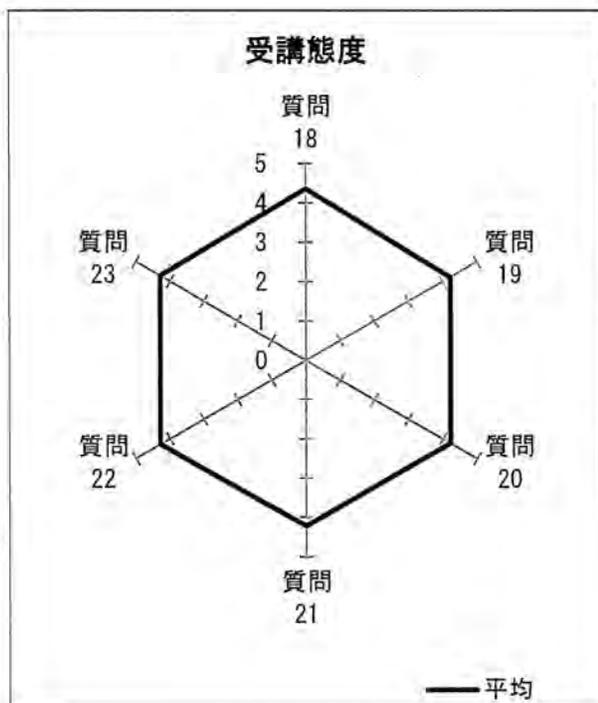
科目コード 416 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 対位法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.7	3.7
質問 8	4.6	4.8	3.7
質問 9	4.4	4.7	3.3
質問10	4.3	4.5	3.3
質問11	4.2	4.5	3.3
質問12	4.2	4.5	3.0
質問13	4.3	4.5	3.3
質問14	4.2	4.5	3.3
質問15	3.9	4.2	3.0
質問16	4.1	4.4	3.0
質問17	4.4	4.5	3.7
平均	4.3	4.5	3.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.2
質問21	4.2
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	対位法	25

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

音楽理論の後をうけて行う授業であるにもかかわらず、和声の進度が遅いこともあり、分析をよりわかりやすくすることに留意し、和声的な分析よりもモチーフやテーマ、そして楽曲の講座等に主眼を置いた授業を展開した。例年、授業内で関連楽曲の鑑賞と分析も同時並行して行うが、今年あまり多くの楽曲を紹介できなかったように思う。また、一曲一曲をじっくりと丁寧に分析していったために、J.S.バッハの平均律クラヴィア曲集第1巻の途中までしか取り扱うことができなかったには、残念であった。

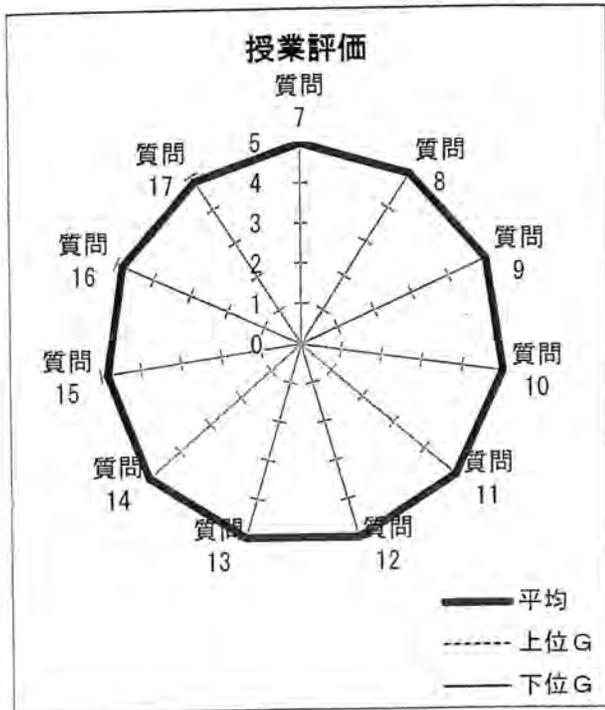
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 対位法

再来年よりカリキュラム変更のため、対位法は音楽理論の中に位置づけられることになり、3年次のこの授業は最後となる。より、学生が興味を持って、積極的に取り組めるよう、自分たちで分析できるだけの知識と技術を身に付けさせるような授業を展開していくタイト考えている。

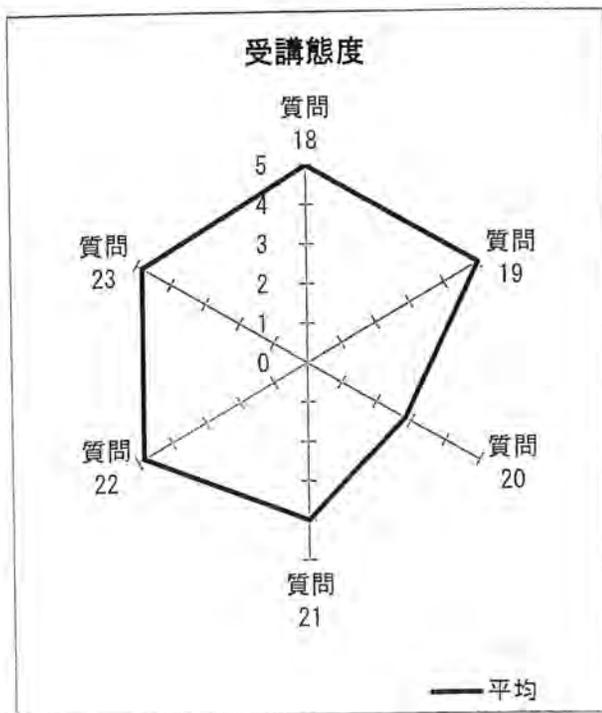
科目コード 417 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 吉田峰明 ソルフェージュ Ia~IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	2.8
質問21	4.0
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したが
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	吉田 峰明	ソルフェージュ I a~IVa	6

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「授業評価」はすべて 4.8~5.0 で、とりたてて触れることはないと思う。一方の「受講態度」は、「欠席回数」が 2.8、「授業の予習・復習」が 4.0 とやや低かった。欠席については規定通りの扱いとしているが、もっと厳しく指導しなければならない。授業の予習復習について、この科目が基礎訓練に類するものであるため、このことは非常に重要なのであるが、一方、自習の難しい科目でもある。もう少し学習の仕方を説明すべきであった。しかしながら年間を通しての学習で学生たちの力に一定の向上が見られた。学生たちには今後も継続して学んでいってほしい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

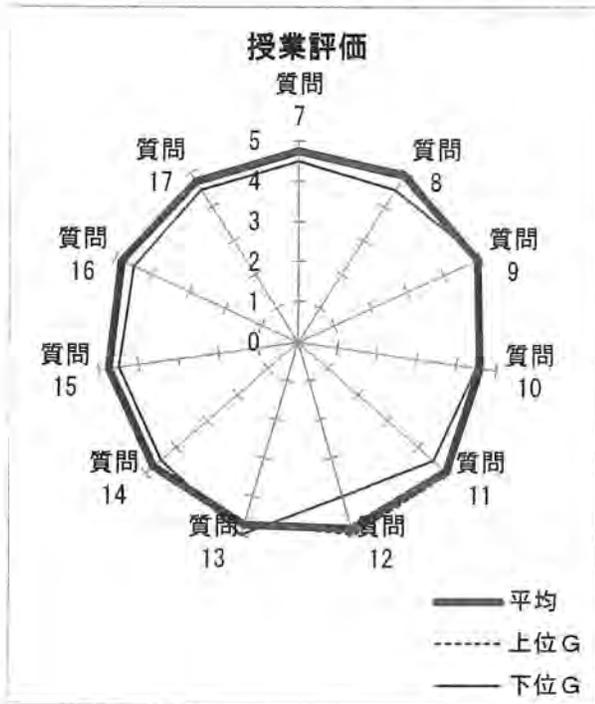
2019 年度担当予定科目名：ソルフェージュ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

他教員と分担担当科目であるため、比較の意味でも引き続き様子を見たい。2019 年度は担当する学生たちの習熟度レベルが変わるため、指導法が今までと同じとはいかない。なるべく多岐に渡る内容を盛り込み、興味と関心を持って授業に臨めるよう、工夫したい。

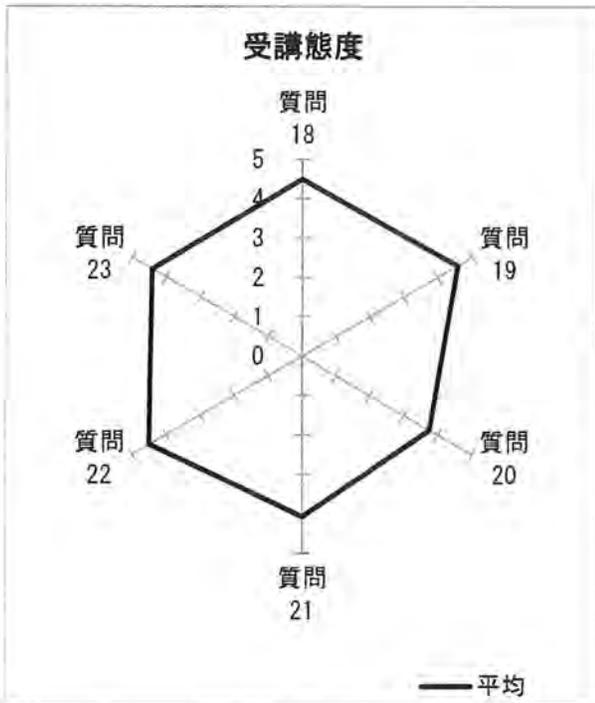
科目コード 418 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 古賀幹敏 音楽療法演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.5
質問 8	4.9	5.0	4.5
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.6	4.6	4.5
質問11	4.9	5.0	4.5
質問12	4.8	5.0	4.0
質問13	4.8	4.7	5.0
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.8	4.8	4.5
質問16	4.8	4.9	4.5
質問17	4.8	4.8	4.5
平均	4.8	4.8	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.6
質問20	3.8
質問21	4.1
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	古賀幹敏	音楽療法演習	15名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

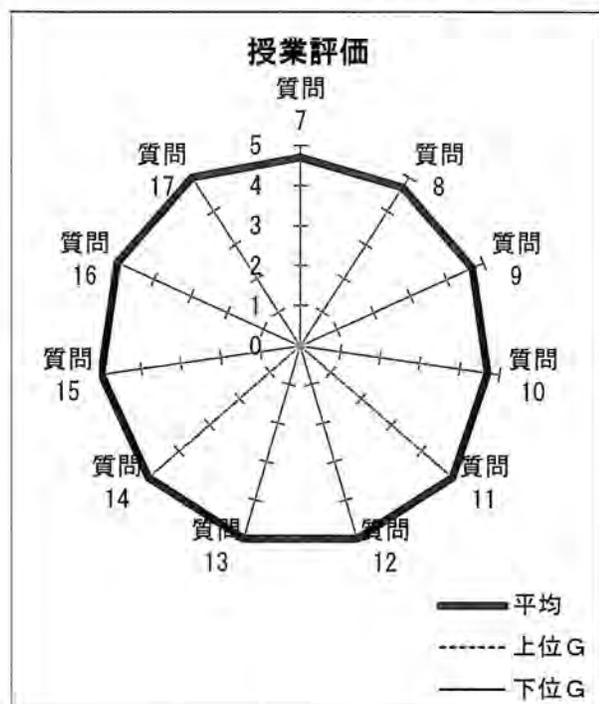
全体として高いポイントだと思える。また上位グループと下位のグループとのポイント差が少ないのが特徴かと言えよう。ただ質問12での上位・下位の差が気にはなる。質問13では、上位・下位グループのポイントが逆転しているが、授業内容に実技が含まれているため活動後の学生の興奮により、早く次の課題に移行したい上位グループからの不満が表現されたものと思える。

II 2019年度に向けての取り組み

学生の欠席回数のみが低い得点になっている。授業内容が各回毎に完結する活動課題であるため、学生自身がボトムアップして内容理解を深める講義との差を感じて、連続して受講することに少し積極的になれなかったかと思われる。しかし、15回で伝える実践技術は臨床では、本の入り口に過ぎないので受講についての重要性を周知したい。

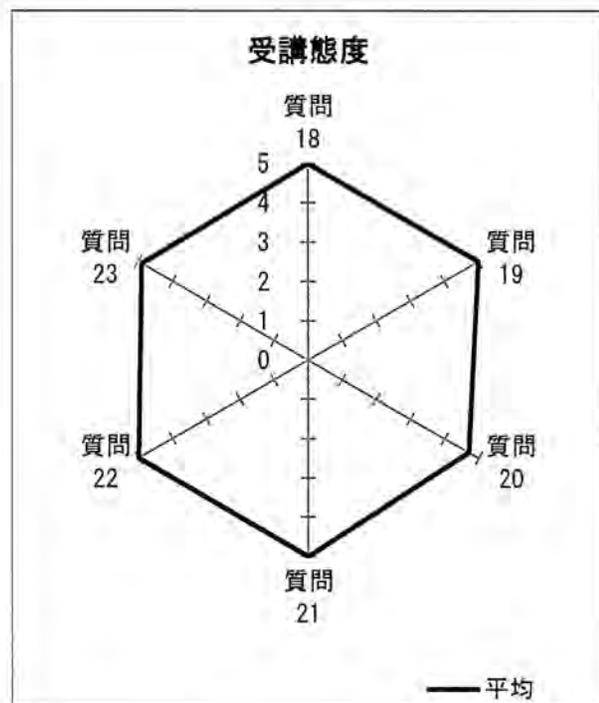
科目コード 419 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 三好直英 吹奏楽 I a II a



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.7	4.7	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.7
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	4.9
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	吹奏楽 I a, II a	10名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問7～17において、平均値が4.9、質問18～23においては平均値が4.9の範囲であった（上位G10名）。

・これまでの吹奏楽実践の講義をふまえながら演奏を中心とし、演奏技術の向上のみならず、吹奏楽の知識を高めるとともに、これからの音楽教育の一端を担うものとして指導者としてのスキルを向上するようにつとめた。単位を必要とする学生のみならず必要としない学生も高い意識でこの講義に参加しておりその姿に感銘を受けた。

・前期には吹奏楽講義の延長として吹奏楽コンクールに出場するという大きな目標もあった。各自が学業との両立で苦勞しながらも九州大会、そして全国大会へと進んだことは学生の素晴らしい努力があったことは間違いない。その結果がこの評価につながったと考える。全国大会で演奏できたことは学生にとっても大きな経験になったと感じる。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：吹奏楽

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

・吹奏楽の知識においても技術においても個々の差があるが、その差を感じさせない成長ぶりであった。そのことから今後可能な限り学生の知識、技術の向上はもちろんのこと、より演奏家、指導者としてのスキルアップ目指し個々の学生の可能性を伸ばしていきたい。そのためにもより実践的な演奏法と指導法を伝え研究していきたいと考える。